

はじめに

(クリスチャン生活と証しの核心)

手紙を書くことは古くから続く行為であり、決して廃れたわけではありません。ただ、手紙の書き方が変わっただけです。確かに、ソーシャルメディアは紙に取って代わりました。しかし本質的には、電子メールもそのほかの電子的な手紙も、基本的に同じ機能を果たしています。つまり、情報、感情、考えを交換することで、人々を結びつけているのです。

なぜ人々は手紙を書くのでしょうか。一つの答えは、伝えたいことがあるからです。使徒パウロもそうでした。彼には伝えたいことがたくさんありましたが、話したい相手と直接会うことができたわけではありませんでした。

そこで彼は、代わりに手紙を書いたのです。コリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)もその一例で、そこには次のような聖書の最も深い真理が含まれています。「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」[口語訳「わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである」](Ⅰコリ 2:2)、「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです」[口語訳「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである」](Ⅱコリ 8:9)。さらに、Ⅰコリント13章のすばらしい「愛の賛歌」が記されています。

一方、コリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)を読む人は誰でも、教会内の深刻な問題性的不道德など——だけでなく、教会員の間の安易な分派争いから生じる細かいあら探しにも、困惑させられるでしょう。もしあなたの教会が困難な問題を抱えていると思うなら、パウロがコリントで対処しなければならなかった多くの争いを目にする覚悟をしてください。もしかしたら、あなたの所属する教会の問題は、あなたが思うほど深刻ではないかもしれません。おそらく、コリントの状況のほうがはるかに悪かったからです。

コリントにおける問題は悩ましいものでしたが、コリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)が私たちの心を捉えるのは、問題そのもののゆえではなく、パウロがそれらに向き合った注目すべき方法のゆえです。パウロは教会員たちに、イエス・キリストの福音の光に照らして、自分自身と自分たちの行動、そして

周囲の文化を吟味しなさいと強く勧めることで、十字架のメッセージを高く掲げています。パウロ自身の別の箇所の言葉を用いれば、福音のメッセージよりも低い基準は、どれもみな、「呪われる」〔口語訳「のろわる」〕(ガラ1:8, 9)べきものと見なされるのです。

パウロの時代、コリントは、港、建築、造船、陶磁器によって富み、商業が盛んなことで有名でした。重要な金融の中心地でもありました。しかし同時に、性的不道德、宗教的無秩序、さまざまな神々にささげられた神殿などでも知られていました。実際、コリントの日常生活は、目に余る偶像礼拝によって特徴づけられていました。このような歴史的・文化的背景は、パウロがコリントのクリスチャンに対して抱いていたおもな懸念、ひいては彼らへの勧告を理解するうえで助けとなります。

今期私たちは、パウロが書いたコリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)を学びます。新約聖書のこの二つの注目すべき書簡の中で、使徒パウロは福音のメッセージを、クリスチャン生活と証しの核心として、またそのほかのあらゆることを判断するレンズとして提示しています。天国への旅路において、私たち一人ひとりが、あるいは教会全体がどのような困難に直面しようとも、キリストのための働きの中で最も難しい問題に対する答えは、コリントの信徒に対する答えと同じです。それは、「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト」〔口語訳「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」〕(Iコリ2:2)です!

イエスは、間もなく来られます。今こそ、キリストにおける一致を深め、これまでにないほど聖霊に心を開き、霊的な賜物を熱心に用い、復活された主との体験をもっと深めるべき時です。今こそ、真のクリスチャンとして奉仕に励み、管理の務めと宣教に取り組み、偽りの教えに対して霊的に戦い、恵みと愛と交わりにおいて成長すべき時です。十字架のメッセージをしっかりと握り、それに忠実であるべき時です。パウロのコリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)は、まさにそのことを私たちに教えています。

〈著者〉アデニルトン・タバレス・デ・アギアル博士は、ブラジルのパイアー州カショエイラにある北東アドベンチスト大学の新約聖書解釈学教授で、2010年から同大学に勤務しています。

Iコリ2:2 (新共同訳)
2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

Iコリ2:2 (口語訳)
2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

Ⅱコリ 8:9 (新共同訳)

8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。

Iコリ 13章 (新共同訳)

13:1 たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

13:2 たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。

13:3 全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

13:9 わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

13:10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

13:11 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。

13:12 わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知

Ⅱコリ 8:9 (口語訳)

8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

Iコリ 13章 (口語訳)

13:1 たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鍍鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時

られているようにはっきり知ることになる。

13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

ガラ 1:8、9 （新共同訳）

1:8 しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよい。

1:9 わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。

には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

ガラ 1:8、9 （口語訳）

1:8 しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。

1:9 わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。